

## 両親で育児参加できる機会の場を提供する 日曜開館の児童館&我が家の夫の活用術

青葉 かお里

ある日、最寄の児童館で「子育てパパ講座」なる行事が開催された。ブラリと中途参加させてもらうと、日曜日なのに約10名のパパたちがずきな意見で、子育てに一生懸命に取り組んでおられる姿が目につかんだ。お互い何かもめごとが起こる前にいつも「仲良く」と言い聞かせ合う年輩夫婦や、「妻と今までに喧嘩した事がない」と言い切る別のご主人。兼業主婦である妻の負担を少しでも軽減しようと、土日だけでも、と育児に励んでおられるパパもおられた。

しかし、本当に、パパの手助けが必要なのは、専業主婦のママたちではないだろうか。意思疎通がまともに出来ない乳幼児を四六時中、休日

なしで世話しながらの家事は、兼業主婦よりも大変だ、と言われる。実際、私もフルタイムで働いていた頃より、子供が出来て専業主婦になつてからの方が、自分の時間が目に見えて少ない。でも、こちらは、給料と言う物差しがないので、なかなか日頃の頑張りを、御主人に理解してもらおうのが難しく、育児はもっぱらママだけの役割になつてしまふのではないだろうか。

残念な事に（少しシヨクなことであるが）、家庭に前向きな意見を述べるパパたちでも、ママからは厳しい採点をもらつているようだ。例えば、オムツ換えの際、パパの締めた腰テープが緩すぎて、ウンチが子供の服にまでついてしまい、結局ママが汚れを掃除する羽目になつてしまつた、等。ママがやったほうが早い、と愚痴をこぼされるとのこと。

注意の仕方を損ねれば、夫はどんどん育児を放棄してしまい、何もやらなくなつてしまう。父親は細かいことが苦手。出来ないから父親失格と決めつけるのも、ママにとって損だし、夫婦喧嘩にでも発展すれば子供にも悪影響を及ぼす。父親ならではの特技を生かした子供との関わり

方はないものだろうか。

我が家では、幸いなことに、夫の職場が家から近いという事もあり、平日の昼休み、毎日買い物をしてから帰宅し、その後、子供を散歩に連れ出してもらっている。娘が生まれて初めて外気浴した日からの習慣で、夫も仕事の合間に子供と会えるのを楽しみにしている。子供は程よくお腹を空かせ離乳食をよく食べ、その後、二時間ほど昼寝をしてくれるので、その間、夕食の準備などの家事を効率よく済ますことができる。昼間の散歩によって、昼夜のメリハリがつき、寝つきの良い子に育ってくれている。日頃、母親としてのキャパを広く保つためにも父親の協力は不可欠だ。それが子供の心を育てる親につながるのではないだろうか。

夫の特技は、というと、掃除、洗濯、炊事・・・と、細々とした家事はどれも苦手。でも、ダンスだけは、決してプロの腕前ではないが、外国人労働組合とのつきあいで（夫はインド人のだが）、長年、ボランテニアの一員として踊っている。言葉に替わる意思疎通の手段として、夫のダンスは、母国語がそれぞれ異なる外国人どうしの雰囲気や和ませ、

互いの志気や団結力を高めるのに役立っている。これを育児にも役立てて欲しいと思う。

我が家と同じく御主人がインド人であるママ友達は、御主人の実家であるインドに里帰りした際、母子共々、言葉の壁にぶつかつたそうだ。子供は、日常会話レベルの現地語を少し話せるのだが、日本に暮らし、幼稚園でも家でもメインの会話が日本語なのだから、むこうの国で上手く馴染めないのも無理はない。コミュニケーション手段の一環として舞踏でも披露すれば盛り上がったのではないかと彼女は苦笑した。

そういえば、我が家の里帰りは決まって冬休み、現地では結婚式シーズン真っ盛りである。近所付き合いが濃密なインドの農村とあつて、毎日のようにどこかの結婚パーティーに招待される。結婚式は、村中の人々が集まって新郎新婦を祝福する一大イベントであると共に、娯楽施設がほとんどないインドで、バンガラという民族舞踊を踊りながら皆が楽しめる、大切な交流の場でもあるのだ。ダンスができれば、言葉は通じなくても、それなりにいろんな人々と仲良くなれるのではないだろうか。

第二の故郷の地に暮らす人々や文化にも愛着を持つことによって、より豊かな視野が広がる。将来子供が自分の進む道を決める際、選択の幅が広がることにつながる。

その講座に参加されていた方たちの中に、（私以外）唯一女性であるAさんは、フルタイムで働くママである。日中は保育園に子供を預けているのだが、御主人の出張が多く、ご両親も遠方に住んでいるため、普段は母子家庭も同然の状態にあるという。そこで父親の役割とは何か、また、母親として自分が足りない部分をどう埋め合わせればよいかを模索するためにやって来られた。

自分の子供と遊び相手になつてくれるパパ友達を作りたいのかも？と勝手に察した私は、お節介ながら早速、自分の夫を紹介した。そして毎週土曜日、私たち家族とAさんのお子さんたちみんなと一緒に児童館で遊ぼう、ということになった。

家に帰って夫にその話をする、まんざら嫌でもない様子。元来、夫は子供好きで、外国人という事もあって、その特権を生かし（？）、同じ

団地内の子供たちと日頃から仲が良い。祖国では、六人兄弟の四番目というポジションで、その大家族や親戚、頻繁な近所付き合いと言った、地域社会のいろんな人たちの影響を受けながら、人として当たり前の道徳や思いやりの精神、そして適応力や人との交渉力・コミュニケーション術などを習得した（のだそうである）。

交渉力・コミュニケーション術に関して、私が感心したのは、オーストラリア旅行に行った時のことだ。なにも土産売場でやらなくても・・と思っただけだが、身に付けた習慣なのか、挨拶がわりなのか、値段の「交渉」を始めてしまった。文法でたらのめの片言英語で、「最後にもう一度お前にチャンスを与える。○ドルにまけてくれ。でなければ別の店に行く。」などと、安っぽい映画に出てきそうな、クサイ台詞で見事に値段交渉が成立したのである。店主も最後は冗談交じりの半分呆れ顔で、「ユアウイン（お前の勝ちだ）」と言い放った。私は、というと、店員の「キープチエンジ（お釣りは要りません）」のジョーク（？）にだまされそうになる始末だった。

子育てにもそれらの能力を存分に発揮し、豊かな心を持った人間を育てていただきたいものである。例えば、学校の先生だけではカバーしきれない、「道徳」の体験学習を担当するのはどうだろう!!

毎週土曜日、我が家の娘はAさんの双子のお姉ちゃんたちと、そして長男のお兄ちゃんも我が家の夫と一緒に遊ぶ。そして、みんなが遊んでいるのを近くで見守る私とAさん。

私のお節介で勝手に始まったこの家族交流で、感謝しなければいけないのは、実のところ、我が家の方である。実は最近、夜遊びばかりしていた夫。休日になる度に朝帰りして、昼過ぎまで爆睡！夜遊びの原因は（良く言っちゃれば）、新たな人付き合いの広がり求めての事なのだろう。酒もあまり強くなく、タバコも一切吸わない彼のそんな脳天気（?!）マンネリ化した余暇の過ごし方にも、終止符を打てる時期がやってきたのだ。新天地である児童館で、Aさんの子供たちが夫と遊んでくれることによって、私は、休日に夫の家庭サービスを得ることが出来たのだ。Aさんのおっしゃるとおり、我が家の夫が、本当に、出張中

ある御主人の穴埋めになつてゐるのなら一石二鳥である。

家族ぐるみで近所付き合ひができるのも、ここの児童館の魅力である。なぜなら日曜日も開館してゐるため、土日が休日というパパも来館しやすいからだ。実際、月に一度のファミリデーには、親子で一緒に楽しめる面白い企画が用意されており、毎回、大勢の家族がそろつてここを訪れてゐる。両親で育児参加できる機会の場を提供できる日曜開館の児童館は、数が少ないので、本当にいい場所に住んでいてよかつたなと思う。

我が家も、12月のファミリデーには、家族総出で初めて顔を出した。その日の企画であるクリスマス用の可愛い手作りの三角帽子を、まず、子供にかぶらせ、クリスマス気分が高揚してきた所で、色紙などで演出を効かせた部屋に移動し、ティーパーティーを満喫してきた。夫は、初対面の人たちと仲良くなるうと、「メリークリスマス！」と言つて、買つてきたお菓子を皆に配つて回つてくれた。

家族内だけでなく家族間のつながりもできればいいなと思う。ママ同



志だけでなく、パパ同志でももっと、育児の体験談など、楽しく歓談しながら、お互いライバルとして、それぞれの家庭に帰って、パパ友達に自慢してきた名子育てぶり（！）を実践していただけたら、ママも子供ももっと幸せになれるだろう。

私の役割は、夫のプロデューサーとして、あり余るエネルギーをもった芸達者（？）な夫を、地域社会の奉仕活動へと導く事。これからも、パパの援助が、家族単位で得るのが不可能な、別の母子家庭ぎみのママ友達を搜索し、声を掛けていくつもりだ。氣候が暖かくなったら、腕白な少年の多く集まる午後の時間帯に児童館へ行ってみようと思う。我が家にとって（ひよっとしたらその御家族にとっても）ありがたいことだからである。

児童館に隣接する、保育園の園庭が解放される日などは、夫と子供たちがプロレスごっこやダンスなど、もっと体を使った遊びが出来るだろう。同じ地域の子供たちと顔見知りになり、彼らがのびのびと育ってくれば、もっともっと健全な子供たちが育ち、地域社会の治安の向上に

も繋がるのではないだろうか。それは、広い目で見れば、互いにどこかでつながっている同じ地域社会に暮らす我が家のためにもプラスになるのである。